

指導内容系統表例（社会科、地歴・公民科）

単元 「食料生産と日本の農業」

	小 学 校	中 学 校	高 等 学 校
指 導 内 容	<p>学習指導要領に示された内容</p> <p>・我が国の農業や水産業について、次のこと（「様々な食料生産が国民の食生活を支えていること、食料の中には外国から輸入しているものがあること」「我が国の主な食料生産物の分布や土地利用の特色など」「食料生産に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き」）を調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食料を確保する重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりをもって営まれていることを考えるようにする。</p>	<p>・資源や産業から見た日本の地域的特色</p> <p>世界的視野から見て、日本はエネルギー資源や鉱物資源には恵まれていない国であること、土地が高度に利用されていること、産業の盛んな国であることといった特色を理解させるとともに、国内では地域の環境条件を生かした多様な産業地域がみられること、環境やエネルギーに関する課題などを抱えていることを大観させる。</p>	<p>・世界の資源・エネルギーや農業、工業、流通などから系統地理的にとらえる視点や方法を学習するのに適切な事例を幾つか取り上げ、世界の資源、産業を大観させる。</p> <p>・人口、食料問題を世界的視野から地域性を踏まえて追究し、それらは地球的課題であるとともに各地域によって現れ方が異なっていることをとらえさせ、その解決には地域性を踏まえた国際協力が必要であることなどについて考察させる。</p> <p>・各項目の中でできるだけ日本を含めて扱うとともに、日本と比較し関連付けて考察させること。</p>
	<p>押さえておきたい基礎的・本質的な課題と対策</p> <p>・<u>稲作のさかんな地域→新潟や東北地方、北海道</u></p> <p>・庄内平野→ほとんどの土地に水田がつくられている。最上川や赤川、日光川などの川の水や雪解け水を利用 水田や用水路の開発</p> <p>・六日町→高地のほとんどを田に利用 魚野川の水や雪解け水を米作り利用 昼夜の気温の差が大きい</p> <p>・品種改良、種もみ選び、栄養分のある土づくり、肥料の工夫、水管理(用水路の管理等)、<u>ビニールハウスを利用</u>し苗を育てる、耕地整理など 田の区画を大きくし、大型機械を共同で利用</p> <p>・農協→カントリーエレベーターからトラックで消費地へ</p> <p>・岩手県→夏でも涼しい気候を利用したレタスづくり、高知県→冬でも暖かい気候を生かしビニールハウスを利用したピーマン・きゅうりなどの野菜づくり 茨城県岩井市→レタスづくり</p> <p>・山梨県→雨が少なく、昼と夜の気温の差が大きい気候を生かしたぶどうづくり 福島県保原町→ももづくり</p> <p>・熊本県→あか牛とよばれる肉牛の放牧が盛ん。</p> <p>・北海道別海町→酪農が盛ん。</p> <p>・<u>米の消費量の低下</u>や外国の米の輸入による米余り→米の生産調整(米以外のものをつくる転作)</p> <p>・<u>食料の安全性</u>→地域の食材を積極的に利用</p> <p>・<u>有機栽培</u>の米づくり→化学肥料や農業の量を減らす。(牛や豚のふんによる利用したい肥づくりやあいがも農法など)環境にやさしい無洗米を売り出す。</p> <p>・<u>食料自給率の低下</u>→<u>外国産の食料品を多く輸入</u></p> <p>・耕地面積の減少→農業生産の減少、荒れる農地(環境問題)</p> <p>・<u>農業で働く人の減少</u>→<u>高齢化</u></p> <p>・世界人口の増加→食料不足</p>	<p>・規模の小さい自作農が多い。</p> <p>・品種改良や肥料の使用、機械化などにより、単位面積あたりの収穫量が多い。</p> <p>・土地利用～水田の割合が高い。</p> <p>・<u>稲作が平野部を中心に盛ん。(新潟や東北地方→大きな稲作地域、自主流通米が多い。)</u></p> <p>・米～国内自給率が高いが、<u>消費量は減少傾向</u>(ブランド米の誕生)</p> <p>・減反政策や米の加工品の輸入増加による産地同士の競争激化→農家の経営が厳しくなっている。</p> <p>・兼業農家が多い。</p> <p>・野菜や花、果樹の栽培、畜産なども盛ん。</p> <p>→温室や<u>ビニールハウス</u>を利用した施設園芸農業が発展</p> <p>・野菜の主な産地～大都市周辺の近郊農業の地域、宮崎県や高知県などの促成栽培の地域、長野県(レタス)や岩手県などの抑制栽培の地域→端境期に出荷</p> <p>・果樹栽培～りんごは東日本、みかんは西日本、ぶどうは中央高地に大きな産地(熊本県→すいか、栃木→いちご、山形→さくらんぼ)</p> <p>・北海道→大規模な畑作地域(じゃがいも、たまねぎ)、酪農が盛ん。</p> <p>・鹿児島県、宮崎県→養鶏・養豚が盛ん。</p> <p>・農産物の<u>食料自給率の低下</u>(特に穀物自給率の低下)→農産物の貿易自由化等の影響</p> <p>・小麦やとうもろこし、大豆などを<u>アメリカ等から多く輸入</u>→食料自給の問題</p> <p>・安い輸入農産物に対し、日本の農家は高い品質と<u>安全性</u>を大切にすることで対抗する。</p> <p>・<u>有機栽培</u>などの環境保全型の農業を目指す。</p> <p>・産地直送グループの組織化(大都市の消費者に直接農作物を届ける。)</p> <p>・<u>農業人口の減少</u>や<u>高齢化</u>→後継者問題</p>	<p>・山のちな日本では、耕地面積は全国土面積の約12%である。</p> <p>・ほとんど家族経営である。</p> <p>・農民一人あたりの耕地面積はアメリカ合衆国の約40分の1である。</p> <p>・日本の農家は高度な技術を駆使して狭い耕地に肥料や農薬を大量に投下して、高い収穫量を上げ、集約的な農業を行ってきた。</p> <p>・経営が零細なため、生産コストがかかるため、農産物の価格も高くなる傾向にある。</p> <p>・1995年に米の流通を自由化すると、外国産の安い米との競合も発生した。</p> <p>・日本の農業政策は、農家・農業を保護する政策から、大規模営農を支援する政策へと変化した。</p> <p>・日本の農業就業人口は、長期にわたって減少傾向が続いている。</p> <p>・農業就業者1人あたりの生産額が、製造業の4分の1しかなく、重労働のわりに所得水準が低い。若い人々を引きつけることができない。</p> <p>・<u>農業従事者の高齢化</u>が進み、現在50%以上が65才以上で、その半数は女性によって支えられている。</p> <p>・食生活の多様化に伴って、米の消費が伸び悩んだため、政府は米の買入れ価格を抑え、作付け面積を制限する減反を奨励した。</p> <p>・<u>有機栽培</u>の野菜の宅配 インターネットやパレットによって生産者が直接販売するので、消費者の安心感があり、人気を呼んでいる。</p> <p>・日本の<u>食料自給率は年々低下して、穀物自給率は30%を割る</u>までにいたっており、今では<u>世界最大の農産物輸入国</u>となっている。</p> <p>・輸入先が特定の国にかたよっており、それらの国の農業事情に影響を受けやすい食料需要構造になっている。</p> <p>・消費者の不安が募り、<u>食の安全</u>への関心が高まってきている。</p>
育 成 力	<p>・国民生活を支えている我が国の農業の様子や食料生産について課題意識をもつ。</p> <p>・各種の基礎的資料を活用し、日本の農業の様子について調べることを通して、国民の食料確保の重要な役割や自然環境と深いかわりがあることについて分かりやすく表現することができる。</p>	<p>・世界的視野から見た日本の農業の特色や課題、これからの日本の農業の在り方について課題意識をもつ。</p> <p>・様々な資料を収集し、適切に選択・活用することで、日本の農業の特色や課題、これからの日本の農業の在り方について調べ、分かりやすく表現することができる。</p>	<p>・世界の農業との比較から、日本の農業の特色と背景、抱える問題について課題意識をもつ。</p> <p>・様々な資料を収集し、適切に選択・活用することで、世界の農業の多様性や地域性を系統地理的にとらえ、分かりやすく表現することができる。</p>
自 ら 考 え、判 断 する 力	<p>・国民生活を支えている我が国の農業は、国民の食料確保の重要な役割を果たしていることや自然環境と深いかわりがあることについて多面的に考えることができる。</p>	<p>・世界的視野から見た日本の農業の特色や課題、これからの日本の農業の在り方について多面的・多角的に考察することができる。</p>	<p>・世界の農業の多様性を系統地理的に考察するとともに、世界の農業との比較から日本の農業の特色と背景、抱える問題について多面的・多角的に考察することができる。</p>
活 用 例	<p>・すべて国産品が使われている「和食」をさがすことで、日本の食料の問題点について考えさせる。</p> <p>・食料自給率の低下による様々な問題点について、稲作農家の取組等の学習内容も想起させながら考えさせる。</p>	<p>・小学校やそれまでの学習で学んだ日本の農業の特色や課題を基に、食料自給率や食料の安全性を高めるための具体策について国内の視点のみでなく「世界の中の日本」の視点からも考察させる。</p>	<p>・最近の原油や小麦などの価格高騰の原因について世界の農業の変化や食料事情から考察させる。</p> <p>・世界の農業事情や日本の農業の課題等について学んだことを基に、日本の農業の今後の展望についてまとめさせる。</p>